

広報

Public Relations

いずのくに

<http://www.city.izunokuni.shizuoka.jp>

富士山反射炉
世界遺産登録決定
特別号

平成 27 年 7 月 12 日

祝

世界遺産登録決定
富士山反射炉

世界文化遺産

富士山

2013.6.22 登録決定

世界文化遺産

富士山反射炉

明治日本の産業革命遺産

2015.7.5 登録決定

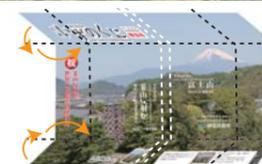
2つの世界遺産を同時に
楽しむことができるまち

 伊豆の国市

広報いずのくに特別号の
表紙がブックカバーに!!



不要部分を内側に折り込むことで、
A5判・B6判などの本のカバーとして
ご利用いただけます。



本の大きさに合わせて、『富士山反射炉』と
『富士山』がそれぞれのページに位置する
ように、適宜、内側に折り込んでください。

世界への約束 葦山反射炉を未来へ

葦山反射炉世界文化遺産登録決定

特別号

市役所世界遺産推進課
☎ 055-948-1425

7月5日、伊豆の国市の歴史に大きなページが刻まれました。

ドイツのボンで行われた第39回世界遺産委員会で、葦山反射炉を含む『明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業』の世界文化遺産登録が決定しました。

市のシンボル『葦山反射炉』が世界の宝として認められたのです。この瞬間を、市民が、そして葦山反射炉の保存に尽力した多くの先人が待ち望んでいました。

しかし、登録は決してゴールではありません。私たちは、目の前にある世界遺産の由緒や価値をよく学び、それらを世界の人々に、そして幾世代までも守り伝えていかなくてはなりません。

登録は私たちにとってゴールではなく、あくまでも新たな使命を担うスタートです。地元に住む私たちは、それら使命を守り続けることを、世界に対し約束したのです。

『葦山反射炉を未来へ』。世界文化遺産への登録を機に、ここ伊豆の国市に住むことに誇りを持ち、これからも葦山反射炉を大切に守り継いでいきたいと思います。

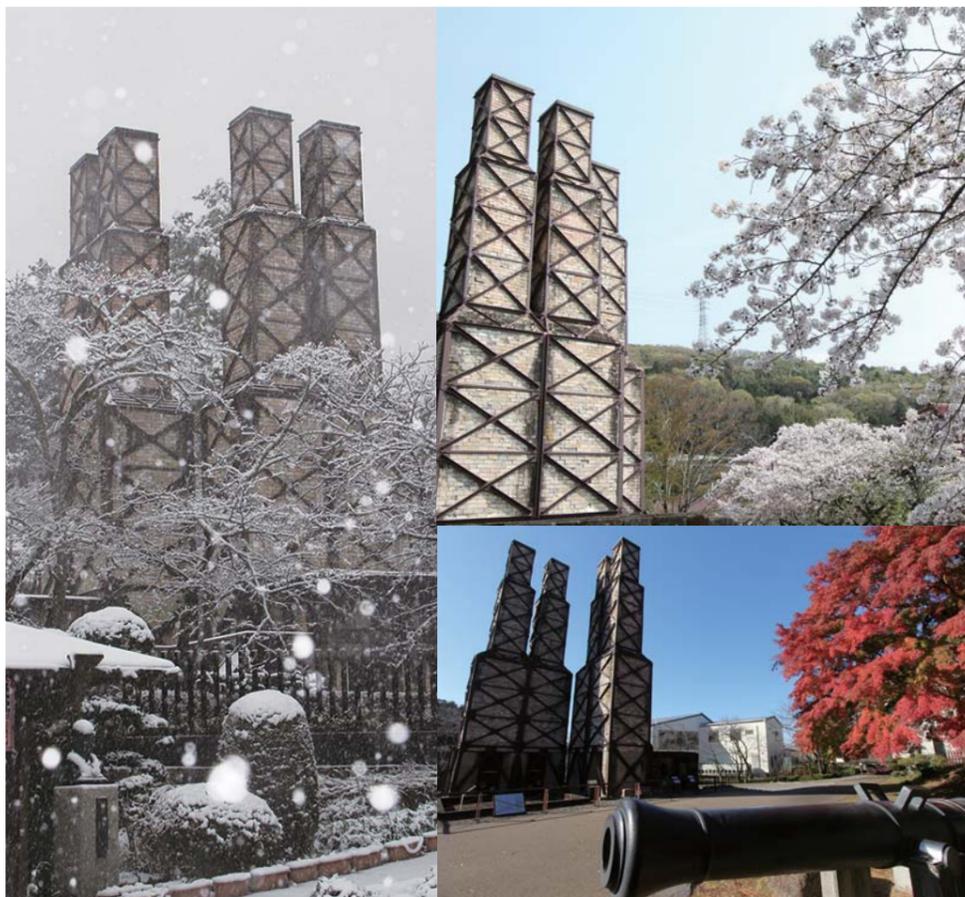


さまざまな

顔をもせる

世界の宝

葦山反射炉



明治日本の産業革命遺産における「顕著な普遍的価値」

九州、山口、岩手、静岡に分布する一連の産業遺産群は、西洋から非西洋国家に初めて産業化の伝播が成功したことを示しています。19世紀半ばから20世紀初頭にかけて、日本は製鉄・製鋼、造船、石炭産業を基盤に急速な産業化を達成しました。一連の資産は、1853年から1910年までのわずか50年余りという短期間で、この急速な産業化が達成された3つの段階を反映しています。

第一段階は、1850年代から1860年代前半にかけての幕末期で、製鉄や造船の試行錯誤期でした。国防、特に海外からの脅威に対する海防を強化する必要から、各藩が西洋の技術書や事例の模倣により（直接ではなく）二次的に知識を得て伝統的な匠の技と組み合わせ、産業化を進めました。

第二段階は、明治時代に入ってから1870年代前半で、西洋技術およびそれを実践するための専門知識を導入した時期でした。

最終段階である明治後期（1890～1910年）の第三段階は、国内に専門知識が蓄積され、西洋技術を積極的に改良して日本のニーズや伝統に適合させることにより、本格的な産業化が達成されました。

イコモスによる調査

世界遺産登録を決めるユネスコ世界遺産委員会は、文化遺産を評価する場合、イコモスに資産の評価を委託します。

イコモスは、世界遺産委員会の前年3月ころから約1年間をかけて調査を行います。各国から提出された登録推薦書や管理保全計画を基に、「顕著な普遍的価値」を見分けるための登録基準に合致しているか（価値）、そして、登録以後、その価値をしっかりと保護・管理する体制ができているか（保全）について審査します。

その審査の一環として、平成26年9月から10月にかけて、「明治日本の産業革命遺産」のすべての構成資産で、現地調査が行われました。



イコモスによる現地調査 (H26.9.26)

構成資産一覧

エリア	サイト	構成資産
1 (山口県) 萩	萩の産業化初期の時代の遺産群	萩反射炉
		恵美須ヶ鼻造船所跡
		大板山たたら製鉄遺跡
		萩城下町
		松下村塾
2 (鹿児島県) 鹿児島	集成館	旧集成館
		寺山炭窯跡
		関吉の疎水溝
3 (静岡県) 韮山	韮山反射炉	
4 (岩手県) 釜石	橋野鉄鉱山	橋野高炉跡及び関連遺跡
5 (佐賀県) 佐賀	三重津海軍所跡	
6 (長崎県) 長崎	長崎造船所	小菅修船場跡
		長崎造船所 第三船渠
		同 ジャイアント・カンチレバークレーン
		同 旧木型場
		同 占勝閣
		高島炭坑
		端島炭坑
		旧グラバー住宅
7 (福岡県) 三池	三池炭鉱・三池港	
	三角西港	三角西(旧)港
8 (福岡県) 八幡	八幡製鐵所	八幡製鐵所 同 遠賀川水源ポンプ室

明治日本の産業革命遺産

なぜ、**韮山反射炉**は九州・山口・岩手とともに世界遺産登録への道歩んだのか？



韮山反射炉の位置付け

23の構成資産は、いずれも明治日本の産業革命遺産の顕著な普遍的価値(世界遺産としての価値)を証明するために、最適かつ必要不可欠な証拠となるものです。

それでは、その中で韮山反射炉はどのように位置付けられているでしょうか。

キーワードは『製鉄・製鋼』・『造船』・『石炭』

19世紀半ばから20世紀初頭にかけて、非西洋諸国で初めて、かつ、極めて短期間に産業における近代化を成し遂げた日本。その成功を支えたのは、「製鉄・製鋼」と「造船」と「石炭」でした。そして、「日本の近代化の先駆け」として位置付けられる産業遺産の集合体として世界文化遺産に登録されたのが、「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」です。

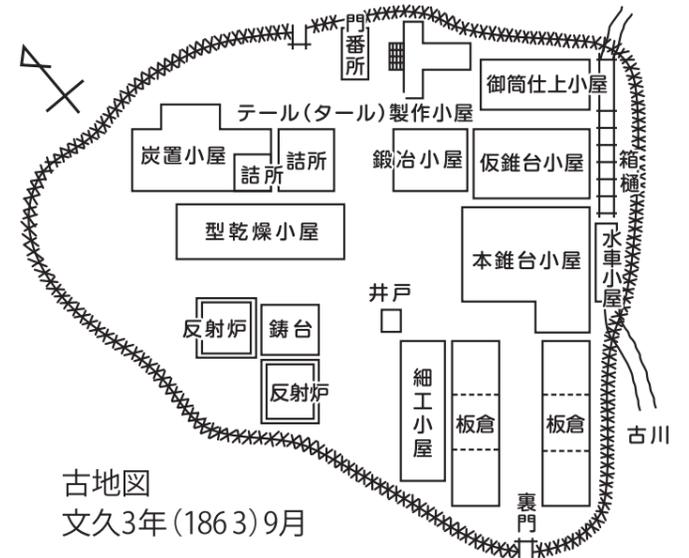
構成資産は、岩手、静岡、山口、九州と広く国内に分布し、合計8エリア、23資産によって構成される一大資産群となっています。

その答えは、幕末期における西洋からの製鉄技術導入を示す証拠であるという点にあります。

幕末期の日本では、迫りくる諸外国の艦隊に対する防衛策の一つとして、進歩した西洋技術を取り入れるとともに、鉄製大砲の大量生産に取り組みました。佐賀、薩摩などの先駆的な藩が反射炉を築造する一方で、韮山代官江川英龍の進言によって幕府が築造したのが韮山反射炉です。

鎖国下の日本において、オランダの技術書と日本の伝統的な技術との統合により独力で反射炉築造による西洋技術の獲得を追求した試みは、人類の価値観の重要な交流の証拠となるものです。そして、反射炉の築造に際しては、先行して取り組んでいた佐賀との間で活発な技術交流が行われており、国内での技術伝播を示す証拠でもあります。

また、オランダの技術書からはごく基本的な情報しか入らなかったにもかかわらず



稼働時の韮山反射炉敷地内

製鉄・製鋼関連資産を取り巻く歴史

- ◆ 国外の動き
- ◇ 国内の動き
- 1840年 ◆アヘン戦争 (1842)
- 1850年 ◇佐賀藩が国内初の反射炉建造
- 1851年 ◇集成館事業開始
- 1853年 ◆ペリー来航
- 1856年 ◇萩反射炉が完成
- 1857年 ◇**韮山反射炉が完成**
- 1858年 ◇橋野高炉の操業成功、寺山炭窯跡が完成
- 1899年 ◇八幡製鐵所旧日本事務所が完成
- 1900年 ◇八幡製鐵所鍛冶工場が完成
- ◇八幡製鐵所修繕工場が完成
- 1901年 ◇八幡製鐵所が操業開始
- 1910年 ◇八幡製鐵所遠賀川水源ポンプ室が操業開始



蕪山反射炉世界遺産登録決定
(7月5日：蕪山時代劇場)

蕪山反射炉を未来に



先人たちから刻まれた 蕪山反射炉の保存の歴史

白亜の塔だった蕪山反射炉



CGによる再現イメージ

蕪山反射炉といえば、レンガとそれを囲う鉄の筋かいが特徴的ですが、建設当初は「白亜の塔」でした。当時は、レンガの上から漆喰がぬらされていたのです。

鉄の筋かいは、昭和32年（1957）の大修理のときに、地震から反射炉を守るために補強用で取り付けられたものです。その後、平成元年（1989）にさらに丈夫なものに付け替えられ、今に至っています。

こうした取り組みの結果、蕪山反射炉は実際に稼働した反射炉としては、国内で唯一ほぼ完全な形で保存されています。

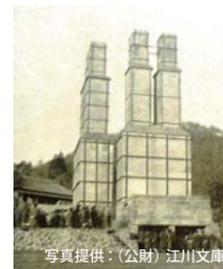


写真提供：(公財)江川文庫
明治初期の蕪山反射炉

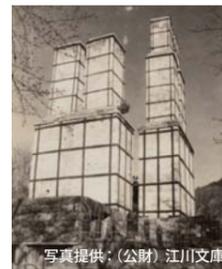
地震との格闘の歴史

蕪山反射炉の外観の変遷をたどると、地震との格闘の歴史がわかります。建設中の安政元年（1854）に起きた安政の東海地震、昭和5年（1930）の北伊豆地震。強い地震が襲ったたびに補修され、耐震性の向上が図られてきました。

蕪山反射炉の姿からは、私たちの先人が蕪山反射炉を大切に守ってきた歴史をうかがい知ることができます。



写真提供：(公財)江川文庫
明治41年(1908)鉄枠による補強後



写真提供：(公財)江川文庫
昭和5年(1930)北伊豆地震による北炉最上段崩壊



昭和32年(1957)北炉最上段復元と鉄の筋かい補強後



静岡県知事
川勝平太

蕪山反射炉を含む、「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、

蕪山反射炉の世界遺産登録決定を受け、これまで応援いただきました皆様から感謝申し上げます。私自身、登録決定の瞬間には、幕末に「里はまだ夜深し富士の朝日影」と嘆かれた江川英龍公が「今、世界の人になられた」と思うと、込み上げてくる涙を抑えることができませんでした。

蕪山反射炉の世界遺産登録が決定し、蕪山反射炉応援団の会員一同大変喜んでいきます。我々応援団は、蕪山反射炉の世界遺産登録を応援しようと、平成24年4月の発足以来、行政と連携しながら、各種イベントでのPRや清掃活動などを実施してきました。このような取り組みが、地域の皆様の世界

市民が守った蕪山反射炉



大正15年(1926)、市民を中心とする「蕪山反射炉保勝会」が設置した「反射炉碑」

明治維新後、工場としての操業を停止していた蕪山反射炉は、荒廃の一途をたどり、幾度となく取り壊しの危機に見舞われます。明治12年(1879)、静岡県令大迫貞清は、後の総理大臣となる伊藤博文に保存の建白書を提出します。これにより、反射炉の建つ場所の土地が国有地化されます。

また、江川英龍の孫婿の山田三良東京帝国大学教授を中心として、反射炉保存運動が起こります。この運動に呼応して、地元有志により反射炉周辺の土地を購入し陸軍省に献納します。こうした動きにより、明治41年(1908)には、陸軍の手によって最初の反射炉保存工事が実施されました。

地元有志はその後、「反射炉保勝会」を設立。以後、反射炉の保存に尽力しました。

石炭産業」が、世界遺産として正式に登録が決定されたことは、大変喜ばしく思います。これまで、貴重な産業遺産を大切に守り伝えてこられた地域の方々や、世界遺産登録に向けて御尽力をいただいた関係者の皆様方の御努力に心から

敬意と感謝を申し上げます。引き続き、国や関係自治体等との連携を図りながら、富士山に続く本県二つ目の世界遺産となった「蕪山反射炉」を、「人類共通の財産」として、後世に確実に継承してまいります。



伊豆の国市長
小野登志子

蕪山反射炉は、日本の近代化の象徴です。我々は、蕪山反射炉を将来にわたって守り続けていくことを世界に対し約束

遺産登録に向けた機運醸成に少しでも貢献できたとすれば、私にとってこれ以上の喜びはありません。

さて、蕪山反射炉は、文字どおり伊豆の国の宝から世界の宝となりまし。それは大変誇らしいことであると同時に、地元が将来にわたり確実に守り続けていくという大きな責任を与えられたわけです。そのためにも、今後

も地域が一体となった保全活動への取り組みや子どもたちへの教育などの活動を実施していきたいと思っています。



蕪山反射炉応援団
理事長 渡辺解太郎